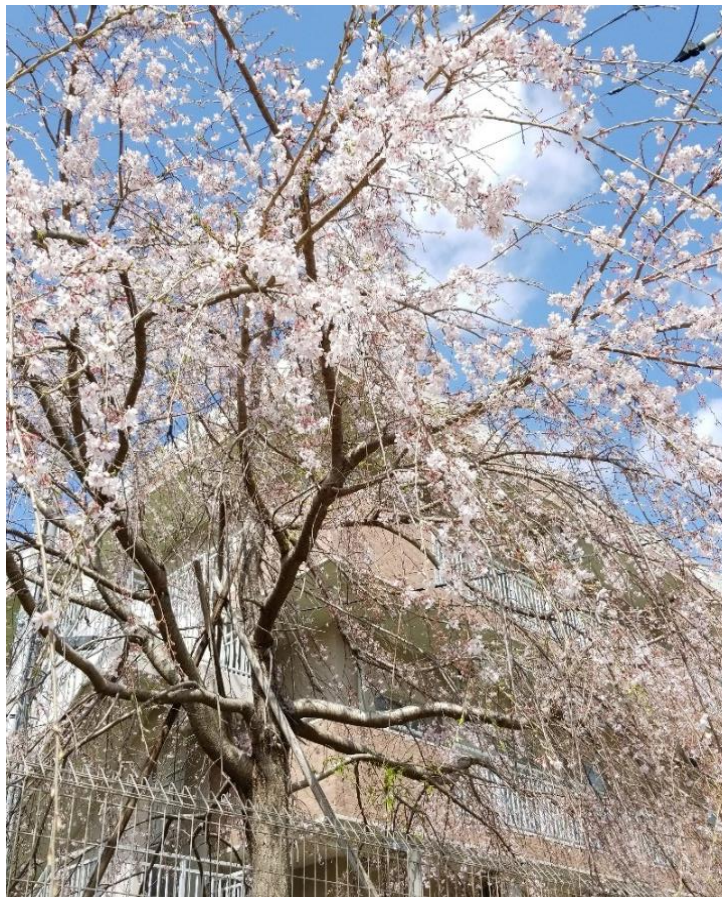


# 春爛漫。さくらさく

今年もはなさかの桜は枝垂れ桜から花を開き、建物を囲む20余本の桜が競うように次々と満開を迎えました。桜に前後して桃や梨の花も彩りの競演に華を添えます。



枝垂れ桜、薄墨桜やソメイヨシノなど品種のちがう桜の木が競うように開花。桃の木はさくら保育室園庭の横で、毎年桜より先に満開を迎えています。



# はなさかさかす

社会福祉法人報徳会  
広報紙（季刊）  
はなさかさかす  
令和3年春号



## 「当たり前前の日常」と「おなじ歌を歌うこと」

社会福祉法人報徳会理事 岩壁 清吉

コロナ禍の「困難」を生き抜く私たちに届いた力強いメッセージは、春センバツ野球の「選手宣誓」でした。《答のない悲しみを受け入れることは、苦しくて、つらいことでした。しかし同時に多くのことを学びました。当たり前前だと思ふ日常は誰かの努力や協力で成り立っているということ。》

十年前の震災の罹災者でもあった仙台育英高校の島貫 丞主将のことばに込めた思いの見事さを噛みしめます。

目に見えない禍に対し「緊急事態宣言」等の制限された環境の下でも「当たり前前だと思ふ日常」を取り戻そうと努め励む多くの人たちに向けての心に響くエールといえます。「誰かの努力や協力」に感謝し「失った過去を未来に求めて希望を語り、実現する世の中に」とも呼びかけています。《今日より明日》へと繋がることばです。

もう一つ「当たり前前の日常」を持続させるための一篇。

《一生おなじ歌を 歌い続けるのは

だいじなことです むずかしいことです

あの季節がやってくるたびに

おなじ歌しかうたわない 鳥のように》

『一生おなじ歌を歌い続けるのは』（岸田 裕子）

かつて私は、高校生に向け卒業式で、右の詩に屋上屋を架す次の「贈ることば」を添えて語りかけました。

《この世の中には変えなくてはいけないものもあるけれど、君がつかんだもののなかには、これからずっと手放さなくてもいいものだってきつとある。難しいけれどそれがだいじだと詩人は、私たちにやさしく教えたのだ。

「当たり前前」におなじ歌、歌い続ける心でありたいね。《いつまでもそれぞれが「とりえ」を手放さず育てよう。》



# お花見撮影会

はなさかの桜の下でお花見撮影会。ご家族様へお写真をお送り致します。



# 大凧リニュアル

勝坂大凧保存会様のご厚意で、大凧の張り替えを行って頂きました。真新しさが戻った姿を見て、はなさかのスタッフ一同、身を引き締めて皆様のお世話をさせて頂くように気持ちを新たに致しました。



# くつろぎのスペース ができました!



1階のデイサービスに、くつろぎの空間が新たにオープン致しました。ゆったりとしたロングソファート、足湯が置かれた全面ガラス張りの明るいサロンです。簡易陰圧装置を設置してあり、新型コロナウイルスなどの感染症が発生した際には感染症対応が可能な部屋としての機能を備えています。

# さくら保育室・デイサービス リモートひな祭り

デイサービスの大きなテレビと、さくら保育室をリモート会議ソフトを使ってつなぎ、『リモートひな祭り』を行いました。子供たちの桃太郎の寸劇で盛り上がったあとに、衣装の早変わりです。『たのしいひな祭り』を歌いました。



ひな祭りの様子は画像を編集してDVDで特養のユニットへも配布しました。全館でかわいいひな祭りを楽しみました。

# はなさか農園 2021



この春は、ジャガイモの「きたあかり」と「メイクイン」計20kgの種芋を、西側の耕作地に植え付けました。収穫は6月中旬頃の予定です。

# 恵越し ベランダ面会

ご面会をご遠慮頂いてから、1年3カ月が過ぎて、ご利用者様とご家族様には多大なご心労をお掛け致しております。そこで、安全を考慮してベランダから窓越しのご面会を始めました。ご予約制となりますので、詳しくはお問い合わせ下さい。

# 新型コロナウイルス対策

2階スタッフルームと3階家族室にも簡易陰圧装置を設置致しました。室内の空気を、滅菌フィルターを通して屋外に排気し、ウイルス等を部屋から館内に流出させない装置で、空気感染や飛沫感染などの疾病に対して安全性を高めた部屋となります。

